

新潟県

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

2003

2

February

24.5 特集 600号A4判化に思う

- 3 **視点** かかわりそして新たな創造を 細野 隆
- 3 **ひろば** 学校週5日制と公民館 上野伸一
- 6 **実践記録シリーズ** 素人芝居大浦安について
- 7 **サークル交流** 源氏物語の会 (長岡市中央公民館) / フォレスト・イン・トトロ (広神村公民館)
- 7 **素顔拝見** 鍋倉直也さん (村上市) / 福田仁史さん (横越町)



「青海の竹のからかい」
(国指定重要無形民俗
文化財)

青海町

No.600

公民館月報六〇〇号と A四判化を祝して

第七代会長 石井 耕一
(元豊栄市長)



新潟県公民館月報六〇〇号とA四判化をお祝い申し上げます。

新潟県公民館連合会(当時)の創立から二年八月後の昭和二十八年二月に、新潟県公民館月報の第一号が発行されました。

私は戦後市町村長が公選になったときに葛塚町の助役に就任し、創設した町公民館の館長を兼任しました。そして、北蒲原郡公民館連絡協議会長として県連合会の創立に参加しました。公民館月報創刊のときは県連合会の理事(当時は幹事)でした。資料がないので記憶で思い出を書きます。間違いがあるかもしれませんが、ご了承願います。

県公連の事務所は県社会教育課内で、施設係の甲田敏郎社会教育主事から事務を担当してもらっていました。公民館月報の編集も一緒です。

専任職員は最初は小出町の桜井文一君ですが、その時期は記憶がはっきりしません。亀田町の本田清君が昭和三十四年四月に後を継ぎ、後に事務局長となり、昭和六十一年三月まで二十七年間勤めました。

公民館月報編集の当初の有力な指導者として思い出するのは、山内正豊十日町公民館長です。山内さ

んは早大を出て読売新聞の記者でした。実父山内蔵之助氏が県会議員で十日町新聞の社長でしたが死亡され、息子の正豊さんが読売の記者を辞めて帰郷し、十日町新聞を継承したものです。これは立派な編集の専門家です。その指導を受けた公民館月報は、初めから見事に整った機関紙でした。

昭和三十年十月の新潟大火は事務局のあった原庁分館が火元で、資料一切を焼失しました。しかし公民館月報は一回の休刊もなく、今回六〇〇号となるものです。これは、全国の都道府県公連で例のないことでしょう。

近ごろ月刊雑誌に「継続は力なり」などという宣伝文句で、出版社が直接購読の申し込みを受け、送料無料で家庭へ郵送する方法がひろがっています。

継続で大事なものは、購読でなく発行することです。大正末期から昭和初期に、「キングをはじめ九大大月刊雑誌を発行し、雑誌王国を誇った大日本雄弁会講談社は、いま継続されている雑誌は全くありません。

いま日本一の総合雑誌「文藝春秋」は大正十二年の創刊です。私は現役兵を終わって北朝鮮から帰って以来、一貫してその読者です。今春の八十周年記念号の「三人の卓子」という投稿欄にそのことを書いて出したら掲載されました。公民館と市長との関係で全国に知人、友人が多く、何人かから手紙

をもらいました。

営業雑誌は読者に興味のある記事を書ければいいのですが、公民館月報はその確かな実体が必要です。実体の継続があつて機関紙の継続があります。と言つても、編集を担当する者の苦心と努力は大変です。そうした過ぎた足跡を偲び、その節目に公民館月報継続発行を祝う会を開いたことがあります。

その第一回は、昭和五十九年二月「新潟県公民館月報発刊三十周年を祝うパーティー」を新潟会館で開いています。これは私が県公連会長のとときで、柏崎市中央公民館主事徳間助夫君の提案で開催になったように記憶しています。県公連発足当時の吉川浩次社会教育課長、増井佛三郎、猪股武雄、甲田敏郎、高橋八十の各社教主事、既に県職員を退職された先生たちも出席して、戦後社会が大きく変わった思い出などを語ってくれました。

その次は細川仁県公連会長とOB代表安沢純正県公連三代目会長が発起人となり、十八人に呼びかけて実行委員会を作り、平成七年二月二十日厚生年金会館で「公民館月報五〇〇号刊行を祝う会」の計画文書が私の手もとにあります。ところがこの開催のことが、平成十三年発行の新潟県公民館五十年誌の略年譜の中に記述がありませんでした。これは開催したのかしなかったのか。私は八十歳を超え、胃がんや狭心症など、おっかない病気を

をしていたときでもあり、記憶がはっきりしません。(注・開催済文責・事務局)
なお県公連の歴代会長の中で一人だけ、所属公民館の無い名誉会長のようなものでした。そのわけをこの際、自己紹介しておきます。

昭和四十八年の中東動乱に起因するオイルショックと狂乱物価で、自治体財政は窮地に陥りました。これを突破する方策の一つとして、県市長会、県町村会、県地方課が一体となって法令外負担金の規制をすることになりました。その手始めが審査委員会を設け、県団体の市町村分担金を制限することです。県公連の市町村分担金は八十万円に制限され、専任職員二人の一人分の給与に足りず、事業費は全くありません。このピンチを切り抜ける文言どおりピンチヒッターとして、公民館をよく知る市長として私が引張り出されたのです。

審査対象の団体には、会長が田中角栄代議士の土地改良協会と小沢辰夫代議士の果樹振興会などがあり、手をつけられていないものがあります。私は市長会代表の審査委員となり、大胆に意見を述べ無駄な経費のある団体の分担金は削り、有益な事業の実施団体の分担金は増額を認めるようにしました。私は遠慮なく「我田引水です」と積明しながら、県公連の分担金を最も大幅に増額しました。県補助金も五割増にしてみました。

この実績が認められ、関東甲信越静代表の全公連理事から副会長に推されました。県公連会長辞任で理事失格ですが、定款の学識経験理事として引続き副会長を勤めました。

往時茫々です。

BOOKS INFORMATION

『公民館運営審議会委員の手引—改訂版—』 A4判 68ページ 500円

『全公連50年史』(社)全国公民館連合会 B5判 3,000円 450ページ (送料実費)

新潟県公民館五十年誌 A4判 313ページ 3,000円 (送料実費)

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共 1,800円

申込先 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

かかわり そして新たな創造を

紫雲寺町教育委員会教育次長兼中央公民館長
細野 隆



二十一世紀に入り、「かかわり」「心の豊かさ」という言葉をよく耳にする。私も同感である。今、地方自治も大きく変わろうとしている。このような状況の中で、町民参画を基本として、当中央公民館では、世代間交流事業、町内の団体と幅広く連携した文化・スポーツ事業、放課後・週末活動、スポーツ少年団活動の充実等を推進している。

そこには、伝統ある紫雲寺の地域を愛する思いを深め、今後も心のふる里としての地域を共に創造していこうという気持ちを高めたい熱い願いがある。

B小学校を会場に実施した放課後・週末活動では、職員がコーディネーターとして関

わり、PTAが主体となっており、子どもと大人がニュースポーツや伝統芸能にふれる活動を年間を通して取り組んでいる。参加した方からは今後の取り組みへの積極的な話が出されたと聞き、大変うれしく思うとともに、事業の推進に、豊かな発想に裏付けられた精力的かかわりをしているK社会教育主事の姿のあることも頼もしく思う。

公民館は、今後も人づくり・地域づくりの柱となる必要性を確信している。

本報の六〇〇号をお祝いするとともに、内容・規格等を新たにし、公民館同士の創造的なかかわりの場として、さらに充実することを願っている。

H O T N E W S

掲 示 板

平成15年度 各種公民館大会等の予告

- ◎第54回新潟県公民館大会
 - ・平成15年7月18日(金)
 - ・於 新井総合文化ホール
 - ・参加 県内社会教育関係者 600人予定
- ◎第44回関東甲信越静公民館研究大会
 - ・平成15年8月28日(木)～29日(金)
 - ・於 さいたま市高砂3-1-4 埼玉会館
 - ・参加 関東甲信越静ブロック関係者 1,500人予定
- ◎第26回全国公民館研究集会
 - ・平成15年10月16日(木)～17日(金)
 - ・於 三重県総合文化センターアスト津
 - ・参加 47都道府県公民館関係者 2,800人予定
- ◎新潟県社会教育研究大会
 - ・平成15年10月16日(木)～17日(金)
 - ・於 妙高高原町赤倉
- ◎第43回社会教育研究全国集会
 - ・平成15年8月23日(土)～25日(月)
 - ・於 岡山市市民文化ホール・就実女子大学

学校週五日制と公民館

妙高高原町公民館運営審議会委員 上野 伸一

わが国の学校教育制度は明治初期に始まり、今日まで百二十余年にわたって營々と築き上げられてきて平成十四年四月から大きく転換された。学校週五日制の完全実施である。平成四年から十年ほどかけ部分的に試行してきたので、今のところ大きな問題点は表面化していない。

本来教育といえは学校教育と解されわが国においては、家庭や地域における教育もまた学校中心として展開されてきたので、今回の教育改革は学校のスリム化であるが、しかし教育の中心はスリム化してはならないのである。教育の一部、特に社会体験や自然体験を家庭や地域の総合教育力の活用によって「地域の子どもは地域で育てる」という原則によって一層人間形成を求められるものであり、その中心的拠点で、核となるのが地域の公民館である。従ってその役割を十分に発揮する機会が地域にとっても意義深いものである。

妙高高原町では、町公民館を中心として他に地域公民館(八分館)が十四ヶ所存在しており、各集落の活動の拠点となっており、町公民館・家庭・地域と密なる連携をしており、教育環境が整備されている関係で支援体制が極めてよく、計画から実践まで活発に運営されている。また活動の実践の様子や成果については、生涯学習フェスティバルの発表の場でひろく町民に公開して連帯意識を高めている。この様に、活動や体験を通して子どもたちが自分自身を振り返り、自己認識を深めたり、社会の厳しさを理解すると同時に、共に生きる心や感謝の心も培われ、地域の教育活動の大きな力となっていくものと思っている。

今年度は建設中のコミュニティセンターの完成によって、益々公民館活動が活発になるものと期待している。



公民館の認識の更改する必要があった。そのため、親方日の丸的安易さを払拭し、公民館本来のあるべき姿を強調しなければならなかった。月報の編集は予想以上に難しいものがあった。そんな中で次のように編集方針を立てた。

- ①カルチャーセンター—辺倒から脱して、「地域づくり・村おこし」への挑戦を目指す。
- ②公民館職員の勤続年数の短期間化傾向に拍車がかかり、職員の資質の向上が大きな課題になっていた。よって、研修に力を置き、館長・職員のほかに運営審議会委員をも対象に据えた。(この姿勢が首長サイドから高く評価された。)
- ③県内の優れた実践の紹介はもちろん、県外の先進的な実践事例の紹介など幅広い情報の収集に努める必要があった。

これらの情報や実践事例の収集には苦労は多かったが、幸いなことに、関プロ公連が充実していたので、そこからの情報が容易に得られたことが私に自信をつけてくれた。

また、平成に入って、全公連の機関紙「月刊公民館」の編集に携わるようになると、国レベルの動きも知れるようになり、錚々たる、この道のエキスパートとの交流が深まり、それにより得たものを公民館月報の紙面に反映することができるようになったことも幸いした。

■終わりに

いま、公民館月報は600号を記録するという。この連続たる継承の中に私の果たした役割もあるのだと思うと、箱根駅伝の標の重みに重ね合わせて感無量のものがある。

600号 A4判化に思う

新潟県立生涯学習推進センター 学習相談員
梶 瑤子



全国に誇れる「公民館月報」が600号を記念して、装いも新たにA4サイズで発行されることに心からうれしく思っている一人です。月1回の発行を多くの公民館人が待っていますが、このように月1回発行しているところは全国的にも類がなく、他の都道府県からは羨望の目で見られているそうです。まさに新潟県の「誇り」であります。今、仕事柄各都道府県からの「広報紙」を見ていると殆どA4サイズです。時代に乗り遅れないためにも紙面が大きくなることに大きな拍手を送ります。さて、50年という歴史ある発行の中でこんなことを思い出しました。

公民館職員時代、当時の上村事務局長から、「公民館月報の発行に赤信号」という悲痛の声を聞きました。理由は「お金がない」。購読料によって発行されているのに購読者の減少でどうにもならない、何とか購読者の増を図りたいということでした。早速に取り組んだのが「公民館利用者」への年間購読契約です。利用団体への会合に「購読希望申込書」を添付して懸命に説明しました。僅かな金額で県内の様々な団体の活動情



創刊号 (昭和28年2月発行)

報がわかります。公民館の抱えている問題等も共に考えてみませんか等…。こちらの熱意が伝わったのか120団体の内、約60団体が契約してくれホッとしました。毎月「月報」が届くといそいそと各団体の情報交換箱に入れます。「初めて読んでみたが県内の多くの仲間・様々な公民館活動の実態がわかった」とか、「職員や社会教育関係委員のための情報紙であって公民館利用者にとってどんなメリットがあるの???」。素朴な疑問に「公民館は利用者・地域・職員とみんなで支え合っていくことがとても大事で、この月報はその人と人とを結ぶ大きな架け橋です」と答えていました。

月報を手にしてみると

表紙：写真が語る各地の公民館活動に心が和みます。視点：時々辛口もあり考えさせられます。ひろば：明日への発展のための発言にいつも納得。特集：テーマ選び・内容には編集委員の腕の見せどころで期待しているページです。サークル交流：公民館利用者の定番です。素顔拝見：写真とハッスル職員像を見比べてにやにや… (楽しいページです)。あとがき：編集長の苦労が、少ない字数で伝わってきます。

さて、今後の「月報」はどうあるべきか。現在ほどのページもとても魅力的ですので、このパターンがしばらく続くのではとも考えられますが、「マンネリ化」の打破も必要でしょう。私は、インターネット社会の中で印刷メディアの良さを再認識すること、月報こそ「印刷メディア」としての特性を生かした情報紙を目指すべきではないかと思えます。

1、見晴らしのよさ

メリハリのある紙面構成は「読ませる」機能があり、A4サイズには期待できます。

2、読む(見る)楽しさを

写真やキャッチフレーズの効果はアイデアが勝負になります。

3、編集委員に「公民館ボランティア」を

公民館利用者から編集特派員になってもらって取材・編集等の作業に係わるなど。

新しい時代に向かっては何のための広報か、情報提供か、という基本を忘れないでその上で「印刷メディア」を生かした活動こそ「公民館月報」の進む道ではないでしょうか。

「愛着・歴史・こだわり・ぬくもり」をキーワードに更なる発展を期待しています。

公民館月報第六〇〇号

特集

A4判化に思う

公民館月報と私

顧問
上村 捨二郎



■公民館月報とのかかわり

昭和61年1月。まだ正月気分のままのある日、新潟市の中央公民館長と名乗る方の訪問を受けた。私は教員生活を退職した1年目の浪々たる身だったから、どうぞと快く招き入れた。

どんな用件かな？と首をひねった。公民館とは何の関係もない私にいったいどんな用があると言うのか。たぶん講座か何かの講師を委嘱したいというのであろうと考えていた。

ところが、中央公民館の用件ではなく、新潟県公民館連合会（以下県公連）の用だといい、そこの事務局長を引き受けてほしいというのであった。

これまで、豊栄市長の石井耕一氏が県公連の会長だったが、最近辞任されたので、副会長の新潟市の中央公民館長佐藤真武氏が会長代行を勤めているのであった。そして、石井会長の辞任とともに、事務局長の本田清氏もこの三月で辞めたという。その後任に私をといたのであった。この余りに突然の申し出で私は戸惑い、即答ができなかった。というのは、学校教育に専念してきた私にとって、社会教育の世界はまことに遠い存在になっていたし、県公連の事務局長という聞こえはいいが、公民館月報の編集と発行が主たる仕事だということを知っていた。それは、全県対象の広がりでもあり私一人の仕事としては任が重く自信がなかった。前任の事務局長は、草創期から携わってきた編集の超ベテランであったから、その後を受け継ぐことに不安があった。

しかし、その一方で、昭和40年代の一時期、県教育庁の社会教育課に席を置き、社会教育施設担当として、県下の公民館の普及啓発に取り組んだことがあったが、そのときの思い入れが蘇ってきた。そして、それなりの意欲も湧いてきた。そんなわけで、その年の4月から事務局長に就任していた。

かくして「公民館月報」とのおよそ10年にわたるかわりが生じたのであった。

■県公連の課題

最近公民館関係者の中には、県公連という団体の存在を知らない人たちが出現しているので、「公民館月報」を語る前に、県公連について触れておこう。

いま、県内111市町村内に公立の公民館がほぼ300館、分館を含めると600館以上が設置されており、本館だけでも1,000人余りの職員がいる。それらの公民館のよりよい運営を目指して、情報の交換や、職員の研修による資質の向上を図るための組織体が県公連という団体である。決して無機質な団体ではなく、公民館関係者によって、公民館関係者のための団体なのである。したがって、ここで発行する公民館月報は、公民館関係者自身の身近な情報紙なのである。このような組織は全国の各都道府県に組織され、その全国組織を「社団法人全国公民館連合会」（全公連）とっている。

さて、閑話休題し、私が事務局長を引き受けた当時の県公連の課題（それが、公民館月報の課題でもある）に移ろう。

昭和60年代、つまり私が事務局長に就任した時には、公民館の前途に多くの課題が山積していた。

その第1は、明治以来の学歴社会に大きな歪が生じ、学校教育一辺倒の教育行政から生涯教育（学習）に移行する大変革の中で、公民館は自らの主体的な生き方を求めて模索していた。

第2は、この変革の中で、一部学者による「社会教育終焉論」が提言され、公民館無用の空気が流れるようになり、市町村行政の内部からも公民館不用論を言い出すような時代であった。この二大潮流に、バブル崩壊の波も加わって、県公連の多難な時代がやってきていた。

■公民館月報への取り組み

したがって、それらの課題を真正面から受け止め、

実践記録 シリーズ

59

素人芝居大浦安について

～芝居づくりは地域づくりをめざして～

NPO法人素人芝居大浦安 理事 総務制作部長 鷲津史也



1 素人芝居大浦安とは？

「素人芝居大浦安」は、東頸城郡の因島村・樋川原村・塚塚町の住民有志によって制作される素人の演劇活動です。3町村公民館などからご支援をいただきながら3町村内で巡回公演を行うとともに、上越市、頸城村、新潟市、川口町、長野県飯山市、東京都葛飾区柴又などの他地域での特別公演も積極的に行い、地域の相互理解やPR、交流なども促進してまいりました。1991年(平成3)年にスタートし、今年ではや12周年を迎えます。



「芝居づくりは地域づくり」をモットーに、下は小学生から80過ぎのお年寄りまで、世代・町村・職場の垣根を越えた交流を重ねながら、脚本・演出から舞台美術・音響照明にいたるまで、共同作業による独自の演劇活動を行うというスタイルは近隣に類がなく、地方の文化活動に一石を投じてきたものと自負いたしております。

また、取り上げる芝居のテーマは、「山間地農業」「農村環境・景観保全」「過疎」「嫁婿」「高齢化」「嫁不足」「地域おこし」「町村合併」といったどれも3町村をはじめ日本の地方が抱



える深刻な課題を真正面から取り上げ、さらに新たなまちづくりをわかりやすく例示するといった姿勢を頑ななまでに貫いております。

2 平成14年度の取り組み

平成14年度は、大島村が掲げる「ほたるの里づくり構想」を題材に取り、スタッフ・キャストそして観客である地域住民とともに、「農村環境の保全」「ほたるを核とした都市との交流とムラづくり」に係る諸問題について考える演劇作品を制作いたしました。出演者・スタッフは総勢約50名。2公演合わせて800名余の観客を、地域はもとより上越市など県内一円から動員し、一地方のメッセージを芝居を通じて情報発信できたと考えております。

3 素人芝居大浦安制作委員会からNPO法人素人芝居大浦安へ

素人芝居大浦安の活動は1991(平成3)年、3町村の自治体と地域住民が一体となって実行委員会を組織し始まりました。その後、自ら創作する演劇活動を実行委員会という名称はふさわしくないと考え、制作委員会と改称。

2002(平成14)年12月には制作委員会が母体となりNPO法人素人芝居大浦安を設立しました。従来と同様「芝居づくりは地域づくり」をモットーに、オリジナルの創作演劇を制作する劇団組織を、NPO法人の形で組織化し、演劇活動などのパフォーマンス活動を通して、中山間地農業問題、農村環境保全、地域の文化創造、その他地域づくり全般に貢献することを目指します。

NPO法人後、特に力を入れたい事業は、田舎体験修学旅行生向け

の小規模公演プログラム制作及び公演です。

東頸城郡内の6町村が現在実施している「越後田舎体験事業」で、おもに都市部からやってくる小中高生向けに、大浦安の特性を活かした農村環境・体験学習のソフトとして、オリジナル演劇を制作・上演します。1公演30分程度。もちろん希望に応じて3町村等の住民向けに公演も行います。これにより、田植えや稲刈り体験だけでなく、演劇という新たなジャンルを活用した新たな地域交流の展開を行い、農村環境保全と中山間地における農業の多面的機能を地域住民のみならず多くの都市部の皆さんに、芝居を通じてダイレクトに訴えとともに、かつ地元の参加者が演技や演芸などの特技を活かし、地域振興に直接的に貢献することが可能となります。

4 演劇のもつ力

演劇は、参加者だけでなく観客である地域住民に希望と活力を与える活動であり、地域づくりの原動力ともなり得るものだと思います。

これからも「芝居づくりは地域づくり」を合言葉に、山間地において、3町村合同という広域的で、かつ地域住民が外部の力に頼らず、自ら地域課題を題材とした方言たっぷりのオリジナルの創作演劇を続けていきたいものです。



源氏物語に

魅了されて!!

源氏物語の会



「いづれの御時にか。女御・更衣、あまたさぶらひ給ひけるなかに、…」(桐壺)で始まる源氏物語。どなたも一度は読んでみたい文学の一つです。私達の会は、時代が昭和から平成へと変わる頃、12名程度で誕生しました。以来やがて15年、会員も2倍に増え、年令も様々、男性もおられます。毎月一回古えの平安の雅な世界を探究し続け、今「若菜上」をやっております。古典文を皆で読み合わせ、先生からお話しをして頂きます。時間の合間にティータイムがあり、とても和やかな会です。また、毎年福井県の武生市で催される「源氏サミット」に参加される方もおられます。見聞を広めることも楽しいです。一つと一つと私達の会が

長く続いているのは、源氏物語を最後まで読むという大きな目的と魅力溢れる先生のお話し、会員も互いを尊重し、大切な時間を作りあげているからだと思います。いつか全国の人達と交流し、多くの人に源氏物語を知って頂きたいと願っています。

長岡市 源氏物語の会
星野佳子 記



心のオアシス
オカリナでリフレッシュ!!

フォレスト・イン・トトロ

日本の国で一番最初にオカリナを造り演奏した、明田川孝さん生誕の地である。広神村の今泉にてうぶ声をあげて三年目を迎えました。会員33名のメンバーは、広神村の四季と同じで、(老)(若)(子)(男)(女)と



変化に富んでいます。70才から小学一年生までの男女が3名と、ちよつと寂しいですが、名演奏めざして楽しんでます。一人一人の音楽経験年令がさまざまに進み方もいろいろですが、早く先生のように、豊かな音色になれるようにと精進中。月一回は先生から指導してもらい月二回は自主練です。先生の演奏会に、ほんのおまけでチョコッとお出させてもらったり、ボランティアでいろいろの会に出演したりと、みんなやればこわくない!!とばかりに気を強くして出演しているメンバーです。春になったら満開の桜の下や一面の菜の花畑で演奏したいな、と今スノーイン・トトロの状態練習しているのですが…。

夢がかなうかな。
広神村オカリナサークル
フォレスト・イン・トトロ
山本恵子 記

村上市は、縦横に細長い地形をしています。中央には本館を配し、周りを囲むように四つの地区館を有していますが、その中の山辺里地区館を一人で担っているのが彼です。

背が高く180cmで一丈太めの体型をしているので「スポーツはしないのかな。」と思いきや、なかなかのもので勤労青少年ホームの仲間達とバスケットボールに



村上市山辺里地区公民館
主事 鍋倉直也さん

興じ、他にも野球や海でウェイクボード、冬にはスノーボードと活発に余暇を過ごしています。

地区館に配属されて3年目となりますが、まだ年令25才という若さを武器に、仕事にも意欲的に関わり、そつなくこなし、地区館を訪れる子ども達からは「髭のお兄ちゃん。」として、親しまれている牡羊座、血液AB型の彼なのです。

(渡辺邦彦 記)

生涯学習係を担当して、はや9年をむかえます。選跡発掘などをする歴史・文化財の仕事が本業ですが、現在は主として町史編さん業務でがんばっています。親切で物腰が柔らかく、仕事はテキパキとこなすベテランです。選跡調査では、土木工事のようなことから難しい古文書の解読などをする仕事ぶりには、頭のさがる思いです。今、小学生が総合学習の中で横越の偉人や昔のくらしな



横越町教育委員会教育課生涯学習係
主任 福田仁史さん

どの調査におおぜい来館しますが、そのとき対応するのが福田さんです。子どもたちの質問に親切丁寧にわかりやすく説明し、子どもたちには大変人気のある歴史の先生です。明るく好青年の福田さんですが、忙しいためか、お嫁さんを探す時間がないらしく、目下独身が続いています。この紙面をおかりして花嫁さんを大募集いたします。どなたか立候補される方はいませんか。

(羽田太一 記)

素顔
拝見

恵贈資料紹介

ばらうんすくん、やるまいかプラン

名立町生涯学習推進本部

平成9年3月に第1次プラン策定、今回第2次プランが策定されました。
 標題の「ばらうんすくん、やるまいか」のネーミングもなかなかユニークで親しみやすくなっております。新世紀を展望して、地域住民の自主的な学習活動を振興し、笑いつつまれた大きな「学校」という意味が込められているそうです。
 内容は、序章第2次名立町生涯学習推進プランの策定、第1章各世代に合わせた施策・事業の展開、第2章学習の場の充実



と振興、第3章多様な学習活動の充実、第4章生涯学習推進体制の整備充実、資料とから構成されております。
 このプランの特徴は、第3章の多様な学習活動の充実で従来の○女性・男女共同参画、○健康づくり・保健・福祉、○ボランティア活動、○情報化への対応、○国際理解、○芸術文化活

動、○スポーツ活動等に加えて、新たに○ふるさと、○産業・観光、○人権、○安全・防災という項を起こしていることです。しかもその中で最重点事業は必ず予算化し、実現を目指す努力をすることです。
 目標「④かよく⑤れもとも⑥やレンジしよう生きがい学習」具体的な実施年度は、15年度～18年度まで策定されており、18年度まで策定されていますが、市町村大合併が押し迫り調整していくのが最大の課題となりそうです。

Net work ネットワーク

第54回新潟県公民館大会開催要項兼 上越公民館連絡協議会研修会開催要項 第1次(案)

・大会主題

「心豊かな子どもを育てるための公民館の挑戦～世代間交流により文化の伝承と感動を伝える公民館活動を求めて～」

- 趣旨 略
- 主催 新潟県公民館連合会 上越公民館連絡協議会
- 共催 新潟県教育委員会 新潟県公民館振興市町村長連盟
- 主管 新井市教育委員会
- 後援 略
- 日時 平成15年7月18日(金) 午前10時 開会
- 会場 新井総合文化ホール 〒944-0046 新井市上町9-2
- 参加者 略
- 日程

9:30 10:00 10:30 12:00 13:00 15:00 15:20

受付	開会式 表彰式	基調講演	昼食	実践事例発表 (パネルディスカッション)	閉会式
----	------------	------	----	-------------------------	-----

- 基調講演 演題 「地域の教育力を高める!」(仮題)
 ～共育コーディネーターの役割～
 講師 清水義晴様(えにし屋主宰、地域づくりプロデューサー)
- 実践事例発表(パネルディスカッション)
 ・パネラー(実践事例発表者)は、2月3日(月)開催予定の上越公民館連絡協議会理事会の中で協議し、3市町村を選出する。(パネラーの発表は、1人概ね20分程度)
 ・基調講演の講師が、コーディネーターとなり、パネラーや会場の参加者との意見交換を行う参加型の討論形式を進める。
- 参加費 県公民館大会参加負担金(資料代含む)2,000円

event information

彩の国・さいたま市に集い、広げよう公民館の輪を 第44回関東甲信越静公民館研究大会開催要項第1次(案)

テーマ 地方分権の時代における公民館経営―行政全体における公民館の機能や位置づけを考える―

- 趣旨 略
- 主催 関東甲信越静公民館連絡協議会・社団法人 全国公民館連合会・埼玉県公民館連合会・北足立南部公民館連合会
- 主管 第44回関東甲信越静公民館研究大会実行委員会
- 後援 略
- 協賛 略
- 期日 平成15年8月28日(木)～29日(金)
- 会場 主会場 埼玉会館
 (さいたま市高砂3-1-4 TEL048-829-2471)
 分科会場 さいたま市浦和中央公民館
 (さいたま市岸町5-1-3 TEL048-824-0161) ほか
- 参加者 略

9. 日程

8月28日(木)	1:30 受付開始	12:30 分科会打ち合せ	13:30 全体会閉会	14:00 基調講演	17:00 分科会移動	17:30 19:30 夕食交流会
8月29日(金)	8:30 全体会開始	9:00 アトラクション	9:10 全体会終了	11:30 パネルディスカッション開始	12:00 パネルディスカッション終了	12:00 全体会閉会式

- 分科会構成
 (1) 対象別部会 4部会
 (2) 内容別部会 8部会
 (3) 管理・経営部会 4部会
 (4) 特別部会 3部会 計19部会
- パネルディスカッション
 テーマ並びに登壇者(講師及びコーディネーター)については、調整中
- 参加費 3,500円(資料代、大会記録集代)

あ A4判化については、約5年間にわたって月報編集委員会で検討を重ねて参りましたが、今回の600号を契機にしてようやく実現の運びとなりました。しかも二色刷りということでも、発行経費(印刷費、発送費等)が大きなネックとなっており、大きな価値の相違がなくなり、何

と

が

き とかいかそんな見通しとなりました。移行へのきつかけは、600号がよるしいのでは、ということでも今井会長の決断により実施に踏み切ったわけです。モデル化、レイアウトとも二社から見積りも出してもらい、安くて実行性、継続性を重視して第一印刷所に決定しました。ここ2、3回は試験的な発行となりますが、ご意見、ご要望、お待ちしております。

表紙解説 「青海の竹のからかい(国指定重要無形民俗文化財)」 「竹のからかい」は小正月の行事で、町が東西に分かれて竹をめぐって争い、その年の豊年・豊作を占います。

発行所 新潟県公民館連合会 発行人/会長 今井昭友 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX(025)224-6073

印刷/第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年極1,800円】